

編集後記

「総合評価方式」シリーズ第3弾。公共工事の発注に際し、市民にとって最良の商品、技術を見極め、購入、発注するためには、何を基準とすべきか。

日常の買物と同様、良い品を程よい合理的な価格で購入し、満足感を得るには、商品の本質を見抜き、評価する力が重要だ。それ以前に、仮に、その商品をいくつかの視点から評価する場合、それらの序列、裁定の配点付けがある。まず、価格と品質だ。これは、明らかにトレード・オフの関係にある。価格の安いものが一番と購入すれば、それはそれなり、効用、満足度もそれなりだ。だからといって、満足の極みを求めれば、財布が悲鳴を上げる。その頃合いが肝要だ。この真髄、公共工事における総合評価に求める本質に通じる。

まず、価格と品質に対する評価点とのバランスだ。これまで、多くの自治体が実施した「総合評価落札方式」の事例を見ると、価格評価点を無条件に100点とし、品質（技術）評価点を10～30点程度としていた。“これまで、価格一本勝負でやってきたのだから、それ以外の評価を1

～3割加えれば十分じゃないか、これが総合評価だ”との判断だったろう。そんなところで、今後50年間、あるいは次々世代まで使用する社会資本施設を調達して良いのか？

貴方と子供の世代が快適な生活でできるようにと“マイホーム”を購入する場合、どうだろうか。まず、本人の年収や今後の生活設計を考え、その購入限度額があるだろう。これは、公共工事発注の際の予定価格とも言えよう。その範囲内で、できるだけ高品質のもの、家族の高い満足度が得られるもの、あるいは将来への備えを含め、慎重に品定めするはずだ。決して、価格10に対し品質3程度には考えない。だが、今日、次世代以降にも及ぶ社会資本施設の調達（発注）に際し、品質評価は平然と3割程度に値切られる。これが実態だ。これが許されるのは、賢い主婦がスーパーでの日常買物で、今夕の食材にと、消費期限間近の肉、魚、総菜などを購入する場合だ。その賢い主婦は、同時に、多少見てくれが悪くとも、多少虫食いであっても、さらには多少割高であっても、平然と有機、無農薬野菜をかごに入れた

りもする。これが、市民感覚というものだ。自らのライフスタイル、生活価値観を大事にする生き方だ。だとすれば、現在、公共工事の発注業務を担当する多くの自治体職員の意識は、自らの客であり、雇い主でもある市民の生活感覚とは大きな隔たりがあると言わざるを得ない。しかも、そこに気付く幹部職員、首長もいないのが現状だ。どうしたものであろうか。

現在、直轄工事を中心に、技術評価点を価格評価点と同じく100点に高める動きがある。至極、妥当な判断だ。ただ、この中で、「施工体制」項目の評価などで、画一的な得点を与えるとなれば、単に、全員に“下駄”を履かせたことで、技術評価自体の優劣比較を薄める結果となるだけだ。ならば、逆効果というものだ。

ここまで言い連ねてきても、筆者の胸中には未だ伝えきれない思いがある。

次回も、さらに総合評価に言及するつもりでいる。

〈編集委員長 石川和秀〉



No. 69 2009 Oct. 平成21年10月1日発行

編集：「No-Dig Today」編集委員会
編集企画小委員会

発行所：JSTT 一般社団法人日本非開削技術協会
〒135-0047 東京都江東区富岡2-11-18
西村ビル3F

TEL.03(5639)9970 FAX.03(5639)9975

発行人：松井大悟

印刷所：株式会社 LSプランニング

● ご案内 ●

◇本誌のご購読について

ご購読をご希望の方は、巻末の振込み用紙で当協会まで直接お申し込み下さい。

○購読料（税込み）

1冊 1,500円（本体1,429円）〒400円
1ヵ年（4冊）6,000円（本体5,716円）〒1,600円

◇発行

年4冊：1・4・7・10月1日発行

◇広告のお申し込みについて

本誌に広告の掲載をご希望の方は、編集室までご連絡下さい。媒体資料等お送り致します。

◇投稿

・技術論文

非開削に関連する技術、製品についての論文を募集しています。

投稿論文は、委員会にて選考の上掲載論文には薄謝をお送り致します。

◇情報のご提供について

・No-Dig NEWS ダイジェスト

非開削技術に関連する新技術、新製品、図書の紹介、関連団体の動向や講演会、セミナー・展示会の案内など、情報をお寄せ下さい。